



学校通信 令和7年9月5日 (臨時)

東広島市立中央中学校

<http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/chuou-chu/>

進礼和校
取節心調



令和7年度全国学力・学習状況調査等の結果について

3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」(4月)、1・2年生を対象にNRT標準学力調査(6月)を実施しました。次の表に示しているとおり、概ね全国平均を上回っており、基本的な学力が身に付いています。今回の結果を受け、各学年・各教科で課題と改善に向けての手立てをまとめました。

■学習調査の平均正答率(%) 理科はIRTスコア

	全国学力・学習状況調査			NRT標準学力調査					
学年	3年生			2年生			1年生		
教科	国語	数学	理科	国語	数学	理科	国語	数学	理科
中央中	58	53	53.4	59.5	55.7	61.4	62.0	62.6	64.0
東広島市	58	50	51.7						
広島県	55	47	49.5						
全国	54	48.3	50.3	56.5	52.5	60.2	60.0	57.4	60.7

■学力調査の分析及び今後の手立て

国 語	【1年】「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての領域において正答率が全国を上回っていた。「書くこと」の「送り仮名を含む漢字の書き」「漢字の読み・熟語の構成等」の分野において課題があった。今後、継続して漢字テストを実施し、「書くこと」の能力の向上を図る指導を行う。
	【2年】「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての領域において正答率が全国を上回っていた。しかし、「漢字の書き」の分野においての正答率に課題があった。今後、継続して漢字テストを実施するとともに、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読み書きの習熟と応用を図る指導を行う。
	【3年】正答率は全ての領域で全国を上回っていた。「書くこと」「読むこと」の領域において課題がみられた。文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりする。目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする学習活動を取り入れ、指導していく。
数 学	【1年】「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべての領域において正答率が全国を上回っていた。「立体図形」「比例と反比例」の分野において課題がみられた。立体図形や比例、反比例についての操作や観察を行い、立体図形等についての理解を深め、それを用いて考察し、表現できるような活動の場を多く設定する。
	【2年】「数と式」「図形」「関数」の領域において正答率が全国を上回っていたが、「データの活用」の領域の「ヒストグラムや相対度数」の領域において課題が見られた。データの分布の傾向を捉える場面を設定し、目的に応じて度数分布表やヒストグラムの階級の度数に着目させ、必要な情報を読み取るよう指導する。
	【3年】正答率は「数と式」「関数」「データの活用」では全国を上回っていたが、「図形」の領域に課題があった。多角形の外角の意味を理解させ、外角の大きさを求められるような学習活動を取り入れ、平行四辺形の理解を深め、証明ができるよう指導していく。
理 科	【1年】「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域において全国を上回っていたが、「物の溶け方と水溶液の性質」の分野に課題が見られた。1年生の単元で、実験、観察を行い、物の溶け方や水溶液を粒子としてとらえ、問題演習を行い、理解を深めていくよう丁寧に指導する。
	【2年】「身の回りの物質」「いろいろな生物とその共通点」「大地の成り立ちと変化」の領域において正答率が全国を上回っていた。「身近な物理現象」領域において全国を下回った。1年生の学習内容の復習を行い、基礎的な知識を習得させる。「身近な物理現象」についての実験、観察を通して理解を深める。
	【3年】「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域において22問中、19問の正答率が全国を上回っていた。「粒子」領域において正答率が低い面が見られた。元素の記号など基礎的な知識を習得させる。身の回りの事象から生じた疑問や見出した問題を解決する実験を行っていく。